

# 下関スタンダード



～授業を振り返る～

- ☆ 「学びが好きな子ども」の育成 ☆
- ☆ 「学びの街・下関」の実現 ☆



I 子供の実態  
を踏まえた授業

知識及び技能の  
習得

思考力・判断力・  
表現力等の育成

これからの時代に

求められる

自己効力感

読 解 力

資質・能力

III 見通しと  
振り返り(評価)  
のある授業

知的好奇心

説 明 力

II かわり  
合いのある授業

学習に向かう  
力・  
人間性の涵養



下関市教育委員会  
令和4年4月 改訂

# I 子供の実態を踏まえた授業

授業づくりでまず大切なのは、子供たちの実態を把握し、その特性を踏まえた単元構成や授業の展開を考えることです。カリキュラム・マネジメントの3つの側面の中でも「子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づいたPDCAサイクルの確立」という視点から、教育課程に基づく教育活動の質の向上・学習の効果の最大化をめざしましょう。

## 児童生徒質問紙の結果を活用した「見えない学力」の分析

- <学習意欲の観点から> (例)「〇〇(教科名)の勉強は好きですか」  
→ 〇〇の学習に前向きに取り組む積極性が見えます。  
(例)「地域や社会で起っている問題や出来事に興味がありますか」  
→ 自分の学びを日常生活に生かす力が見えます。
- <生活習慣の観点から> (例)「朝食を毎日食べていますか」「放課後に何をして過ごすことが多いですか」  
→ 生活リズムの改善・計画的に家庭学習に取り組む日常が見えます。
- <学習習慣の観点から> (例)「家で学校の宿題をしていますか」  
→ 学力の定着や授業準備の意識が見えます。  
(例)「学校の授業時間以外に1日当たりどのぐらいの時間、読書を読みますか」  
→ 言葉に親しもうとする態度が見えます。

## 子供たちの生活の実態を把握

### 子供の実態を項目別に整理

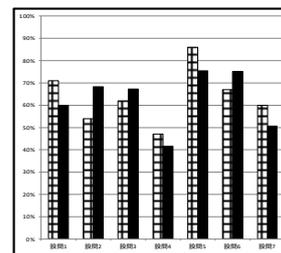
- ・よいところ ・集中できる場面 ・教科の力
- ・得意、不得意 ・友達関係 ・こだわり
- ・困っていること ・家庭環境 ・生育歴 など

### 一人ひとりや学級の実態を把握

- ① 子供たちの普段の表情や会話
- ② 「教育相談週間」の設定
- ③ 「生活アンケート」やQ-U等の質問紙
- ④ 児童生徒理解につながる教職員・保護者との定期的な情報交換
- ⑤ 指導要録、家庭環境調査票、前担任からの申し送り、家庭訪問、個人懇談など

## 子供たちの学力の実態を把握

### 学力分析支援ツールの活用



設問別の正答率がグラフで示されます。特に正答率の低かった問題については誤答分析を行い、どこでつまづいているのかを確認しましょう。

(その他の活用例)

- ・正答率の低い問題から校内研究主題と関連がある1題を選んで、教員全員で解いてみる。
- ・「なぜクロス集計で算数を得意と思う子が増えたのか」「なぜ問題後半の無答数が減ったのか」等の視点から成果分析をし、学校の共有財産とする。

児童の実態をもとに

教師が今できることを考える



単元全体を視野に入れた授業構成の工夫  
1 単位時間の授業展開の改善



授業を振りカエル  
**CHECK!**



### 授業づくり編

- 子供たちの生活や学力の実態を把握して授業に取り組んでいますか。
- 子供の反応や発言をイメージしながら、授業の流れを考えていますか。
- 1 単位時間だけでなく、単元全体を見据えた教材のとらえ方をしていますか。

## Ⅱ かかわり合いのある授業

### (1) まずは支持的風土を育むこと

- ① **ほめる** : 「短く力強く！」…意図的・具体的にほめることで一定の方向性と評価規準を示しましょう。
- ② **しかる** : 「短くしかってじっくり諭す！」…端的にしかることで子供のやる気を引き出しましょう。
- ③ **認める** : 「いてくれてありがとう！」の気持ちをもつ…子供のよさも欠点も、あるがままの姿を認めましょう。  
結果だけでなく、やろうとした気持ち、努力し続けた気持ちも認めることが大切です。

### (2) 何を学ぶか ⇒ 学習課題 (めあて) を明確に！

学習課題 (めあて) は、1 単位時間や単元全体の中で解決すべき課題 (子供たちにとってのゴール) です。

#### 学習課題 (めあて) の例

- 問いかけ型 「なぜ~だろうか (理由)」「どうすれば~できるだろうか (方法)」
- 身に付ける知識・技能型 「~について知ろう (知識)」「~できるようになろう (技能)」
- 思考・判断・表現型 「~についてまとめよう (集約)」「~を説明しよう (表現)」

授業を振りカエル

**CHECK!**



#### 導入編

- 支持的風土を育む授業をしていますか。
- 子供が見通しをもって取り組めるような学習課題 (めあて) を工夫していますか。

### (3) どのように学ぶか ⇒ かかわり合い (対話) を生む発問を

・ 授業は「発問」が命です！「発問」が授業をつくります！「質問」と区別しましょう。

**発問**・・・子供の思考や認識を揺さぶり、新たな知識やものの見方・考え方を得るきっかけとなるものです。考えを促す問いかけです。(例:「~なのは、なぜですか？」等)

**質問**・・・即答できる問いかけです。(例:「~は何ですか？」等)

☆効果的な発問は…

- ① 端的でわかりやすい
- ② 計画的
- ③ 興味・意欲を引き出す
- ④ 子供の実態に合っている
- ⑤ タイミングがよい

子供が考える時間を十分に確保するように (教師がしゃべり過ぎない)

一問一答ではなく、子供たちの中で発言がつながるように (ピンポン型よりバレーボール型)

答えが「はい・いいえ」「そうです・違います」だけにならないように (クローズ型よりオープン型)

☆学習の基盤となる「聴く力」が、学習技能として身に付いていることも大切

- ・ 話し手の立場に立って聴く力 ・ 最後まで集中して聴く力
- ・ 自分の考えと比較しながら聴き、考えを深めたり広げたりする力 など

授業を振りカエル

**CHECK!**

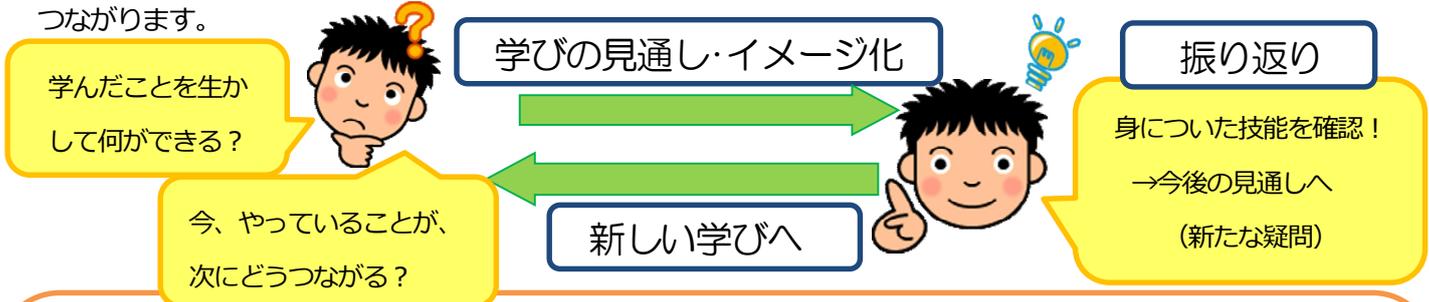


#### 展開編

- 子供の反応を感じ取りながら、授業を進めていますか。
- 対話の場面が課題解決につながっていますか。

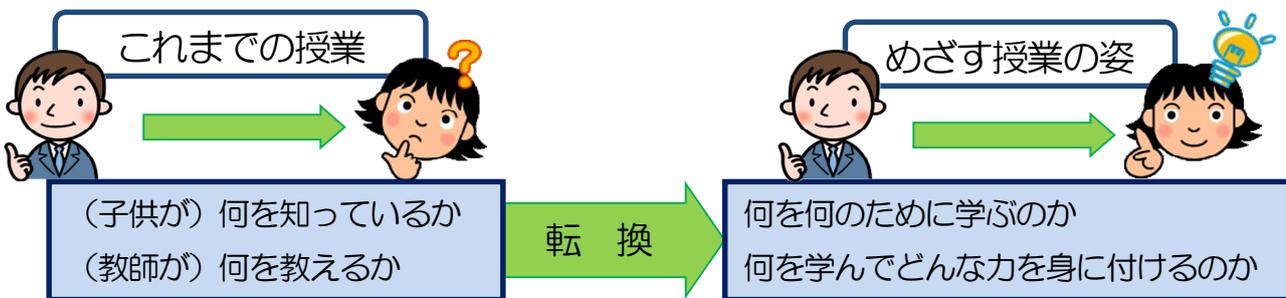
# Ⅲ 見通しと振り返り（評価）のある授業

「何ができるようになるか」を意識した授業は、子供たちが学習の見通しをもつことができます。その見通したイメージと比較して学びを振り返る（評価する）ことは、客観的に自己を見つめることや、次の新しい学びへの意欲につながります。



## （１）「何ができるようになるか」を意識した授業で ⇒ 子供たちの変容（伸び）を見取る

「子供一人ひとりの成長をどのように支援するか」を重視するとともに、「何が身に付いたか」を評価で見取り、「実施するために何が必要か」を合わせて検討します。



## （２）子供自身が学びを振り返り、次の学びへ

「まとめ」と「振り返り」の違いを意識し「評価に対する評価」や「評価のための評価」にならないことが大切。

**まとめ**・・・本時の課題に対する答え・結論（学習内容を定着させるもの）

**振り返り**・・・学びの成果の実感・自己の変容（学習方法や学びのよさに気付かせるもの）

めざしていたゴールの姿と照らし、自分の学びはどうだったか、何ができるようになったか、といったことを記述することで、自己を客観的に見ることができ、次の学びにつなげることができます。「評価に対する評価」「評価のための評価」にならないこと、「学習内容」だけでなく「**学び方**」の振り返りを意識することが大切です。

	記述する内容項目の例	目的
振り返り	授業における <u>子供たちの学習全般</u> の振り返り ○学習内容（例：新しくわかったことは何か？ 見つけたきまりは何か？ 等） →記述したり類似問題を解いたりするなど、多様な方法で ○学習方法（例：自分から進んで質問できたか 等）⇒「 <b>学び方</b> 」の振り返り	主として 子供の学力向上
授業評価	授業における <u>教師の指導全般</u> の振り返り ○発問、板書、説明の仕方等（例：板書はわかりやすかったか？ 等）	主として 教師の授業改善

振り返りを授業改善に！

（例）子供たちの意見や疑問を次時の導入に取り入れる。

学習内容の定着に課題があれば、次時には定着をねらいとした学習展開や授業始めに補足をする。 など

授業を振りカエル

**CHECK!**



### 終末編

- 興味や関心を持続させるような工夫をしていますか。
- 自己の学習を振り返らせ、次の新しい学びにつながるよう工夫していますか。